

議長定例記者会見 会見録

日時：令和4年4月4日 10時30分～
場所：全員協議会室

1 冒頭の挨拶

2 質疑項目

「強じんな美し国ビジョンみえ（仮称）」および「みえ元気プラン（仮称）」
の延期申し入れについて
令和4年度の議会運営について
議長が濃厚接触者となったことについて
令和4年度の県人事異動について
ウクライナへの支援について

1 発表事項

（議長）おはようございます。年度始めのお忙しい中、記者の皆さまにはありがとうございます。

まだ桜の季節ということでこのネクタイも今日もしたんですけども、今月、皆さんもご承知のとおり、昨年11月、それからこの4月はいじめ防止強化月間になっておりまして、毎週水曜日、明後日にスタートしますので、また啓発兼ねて、ピンクシャツってことでそういった柄の色のものを啓発していただければなと思うところでございます。

それでは4月の議長定例記者会見を始めさせていただきます。

まず、私事でございますけども、新型コロナウイルス感染症の濃厚接触者と特定されたことから、3月31日の本会議等を欠席させていただいて、皆さま方はじめ多くの方々にご心配をかけたところでございます。自宅で待機しておりましたが検査による陰性が確認されたため、一昨日、4月2日に公務を再開させていただきました。

それでは新年度を迎えまして、初めての議長定例記者会見となります。昨年度は皆さま方には、県議会の活動等に係る報道について大変お世話になりました。本年度も引き続き、よろしく願いを申し上げます。

本日は発表事項は特にございませんが、2月定例会議を終えての感想や、「強じんな美し国ビジョンみえ（仮称）」および「みえ元気プラン（仮称）」などについて少し申し上げたいと思います。

2月定例会議では、一見知事が初めて編成された、令和4年度当初予算いわゆる一般会計が最も重要な案件の一つであったと思います。令和4年度当初

予算は、新型コロナウイルスの感染症対策はもとより、大規模災害対策や人口減少対策等に取り組む方針が示され、約8,194億円と過去最大の当初予算規模となりました。本議案は本会議、予算決算常任委員会等を通じて、慎重に審査をし、3月24日可決いたしました。その際の予算決算常任委員会の委員長報告ですが、県財政に関し、経常収支適正度は、昨年度に比べて若干の改善が見られるけども、今後も社会保障関係経費などの義務的経費の増加が見込まれることから、本県の財政運営は厳しい状況が続くことが予想されますので、引き続き財政健全化に向けた取り組みを進めていくなど、県当局に要望したところでございます。県当局におかれましては、これら議会から出された意見を踏まえまして、しっかりと執行していただきたいと思っております。

次に、「強じんな美し国ビジョンみえ（仮称）」および「みえ元気プラン（仮称）」についてであります。この件につきましては、令和4年2月定例会議の冒頭で概要案が示され、各行政部門別常任委員会で詳細調査を実施したところでございます。さらに、全員協議会や委員長会議において十分協議を行って、3月31日には知事に対して、概要案に係る申し入れを、副議長中心にしていたいただきました。そこでは、各施策に係る成果や効果を適切に把握できる指標を追加する等、毎年度、各施策の成果を客観的に検証できる仕組みを検討することなどを要望したところでございます。「強じんな美し国ビジョンみえ（仮称）」および「みえ元気プラン（仮称）」は三重県のあるべき姿を示すとともに、県政運営上の基本的かつ重要な計画でございます。県民の負託に的確に応える計画になるよう、議会としてその役割を果たしていきたいと考えています。

私からは以上でございます。

「強じんな美し国ビジョンみえ（仮称）」および「みえ元気プラン（仮称）」延期申し入れについて

（質問）冒頭の発言にありました件でお尋ねします。長期計画と中期計画についてですが、県当局としては、これが当初の予定より策定の時期が遅れるという報告がございました。各会派で持ち帰って議論していただくということになったと思っておりますけれども、議長として、この遅れる見通しとなったことへの、ご認識、受け止めはいかがでしょうか。

（議長）遅れたことについて、ご心配もいただいているところでございますが、「強じんな美し国ビジョンみえ（仮称）」および「みえ元気プラン（仮称）」について、令和4年2月定例会議において概要案が示されて、全員協議会、一般質問、各常任委員会で調査審議し、3月31日に概要案に対する知事への申し入れを行いましたけども、この3月24日の代表者会議で、執行部から、今、ご紹介ありましたように最終案については4月提示を予定していたが、多くの

意見を聞き、よりよい計画を策定するため6月提示に変更し、9月に議案として上程したいとの説明がございました。ビジョンもプランも、今後の三重県政の方向性を示すものですので、その考え方が、より多くの意見を踏まえ、策定することは大変重要なことではあると思っておりますので、議会としても、今後もしっかり議論の時間をいただいたと前向きに捉えて、しっかりと議論していきたいと思っております。当初は、おそらく年末頃は知事も、3月、そして概要案について4月と、最終案に向けて本格的にと意欲はあったとは思っております。ただその3月の議論の中で、先ほども言いましたが、いろんな会議の中でいろんな意見が出て、概要案でさえこのように多くの意見が出たことについて、やっぱり最終案はもうちょっと慎重にまたいろいろ多方面から意見を聞くべきだということで時間も欲しいと言われたんだと思います。ただ私も、話を正副議長で受けた時に思ったのは、概要案の時もパブリックコメントされましたけども、ぜひ、県民の思いを反映すべく、6月の段階においても必ずパブリックコメントをとって、いいものにしてほしいということをお伝えしたところでございます。

(質問) そうすると、受け止めとしては、遅れることについて理解できるのか、もしくは、当初の予定どおり完成させてほしいと思われているのか、ずばりいかがですか。

(議長) 率直に言いますと、決意されたわけですので、一番、4月に整理されて、最終案ですね、整理されて、スピーディーかつ中身が広く質が高いものになれば一番いいなと思ってたことは事実であります。ただそういうお考えだということをお聞かせいただいて、スピーディーも大事だけでもやっぱり質、これから5年間、そして8年から10年かけて向こうのビジョンといったものを質を高めていきたいと、県民のためにというお考えでしたので、その辺は一定理解させていただいたところでございます。

(質問) 同じ質問になりますが副議長もいかがでしょうか。

(副議長) 議長が今お話されたとおりで、当然、長期の計画でもありますので、総合計画ですから、やっぱりしっかりしたものを作っていたかなければいけないってということで、代表質問でも専門家のいろんな話を聞きたいってということ、そんな議論もありましたので、議会からのさまざまな申し入れと、あるいはそれに対する市町の声も聞いて、そしてまた専門家のいろんな声も聞くとすると、そのぐらい時間が必要だという判断をされたということですので、中身の濃いものにしていただければなと思います。

令和4年度の議会運営について

(質問) それでは今年度初めということで、今年度の議会運営の、こういうふうにやっていきたいですとか目標みたいなものがありましたらお願いします。

(議長) まだ私も執行部とは、年度始めになってから会ってない、バラバラ個々では会ってますけど、人口減少のフォーラムでお会いしたとかありますけども、議会事務局の幹部には今朝からちょっと話をしたんですが、議員の任期の最終年度になります。4年目になりますのでそれが過去3年間と少し違うのかなと、集大成しなければならないことも、いろんな委員会や検討会でも整理されつつあることもありますので、それをまとめ上げることがまず大事なかなと思ってますし、1年後にはまた改選の時期を迎えますので、議員にとりましていろんな意味でこの4年間の活動を整理する、個々で整理して、県民に対してどんなことがこの4年間できたのか、そして今後こういうような目標で頑張っていきたいのかというようなことも整理することが大事なかなと思っております。

議長が濃厚接触者となったことについて

(質問) コロナの関係で、濃厚接触者になったということで自宅待機をされて、いろいろお感じになったこともあると思います。これから経済社会活動をもう1回再起動させていく中で、一方で感染の再拡大も防がなきゃいけないという、両立が問われるわけですけども、ご自身が濃厚接触者になられて自宅待機をされてどういったことを課題だと感じられたのか、あるいはこういったことが改善できるんじゃないかと感じられたか教えていただけないでしょうか。

(議長) なりたくてなったわけではございませんが、そういったことで自分自身が体験させていただいて、今回、当初のような保健所のルールが少し形が変わって、今回、4日目、5日目の検査が陰性ならば、1週間じゃなくても早く活動再開ができるということも、自分自身、身に染みて分かりました。特に年度の末と年度の初めでしたので、本会議も含めて、大変ご迷惑な時期になっちゃったなど、自分の議長としての役割が、副議長に全部クリアしていただいたんでありがたかったんですけども、そういったことも含めると、実体験による、いろんな方にお会いして心配の声もかけていただきましたけども、そういうことを生身で感じることもできたということでございます。経済活動のことも言われましたので、確かに感染を拡大することによって、病床の使用率とかそういうのが上がっていくことはいけないことだと思いますけども、しかしながら、縮こまっていて何も活動しないっていうのは、県議会議員としてもそれは当然、常識をわきまえながら、きちっと活動していかなければならないとは

思っております。

（質問）何かご自身の体験から、今後の県のコロナと経済活動の両立に向けて何か提言したいことであつたりとか、発信したいようなことはございますでしょうか。

（議長）議長としての対応は精一杯させてもらったところでございますけども、一般の方がそういった濃厚接触者になるケースもありますので、ルールに従って、それは守りながらも、それがきちんと確保できたら、やはり縮こまらずに、やっぱりやるべきことはいろいろやっていくべきではないかなと思つてます。

- 第二県政記者クラブの方も含めてお願いします -

議長が濃厚接触者となったことについて

（質問）議長おっしゃったように、当然なりたくてなったわけではないんですが、ただし公人と私人という立場から言うと、そこは同じ扱いかつていうことではないと思うので、濃厚接触者になった発端というのを、議長お考えの範囲で何か思い当たるものがあるのですか。

（議長）なかなかその辺は、逆に言うと誰でもなりうる可能性があるのかなあと思つてます。また、こっちの想像だけであの時のこうかななんて言いますと、感染された方にまたご迷惑になることもありますので、細かいところはなかなか言いにくいんですが、ただ議員は、感染した場合は自ら表明するルールになってますけども、濃厚接触の場合は、一般には公表しませんが、たまたま本会議がありましたし、議長という、記者言われましたように、そういう立場があるので、濃厚接触者として代表者会議においても、また報道においても発表されたところでございますので、なるべく自分自身は、今後もさらにそういったことで欠席をしなければならない、それから自宅待機をしなければならない思いを感じながら行動していきたいなと思つてます。

（質問）私が取材したところによると、濃厚接触者今回自民党の中でお三方、議長入れて、中森県議と中嶋県議の濃厚接触者の疑いがあるって形で待機されたわけですけども、それからいくと私が取材してお聞きすると、お三方を含めて割と今回会食をされていると、夜ですね。そういう中の、それが一つあったんではないかってことはないですか。

（議長）それは想像の域ではあろうと思つてますけども、以前もそういった感染

された方に聴き取りがあった時は、保健所から直接お話があったんです。これ実はこんなことで、3メートルも離れてましたよとか、ちゃんとスタンドもありましたとかちゃんと説明できたんですけど、今、直接聴き取りをしてもらえないので、一つの部屋にいたんですねということで、ご判断いただいたのかなと思って、感染の発生率は非常に低かったんじゃないかなと思っております。

(質問) 杓子定規な聞き方すると、知事は会食される場合でもマスク会食してほしいと県民含めて呼びかけられてるんですけど、議長とか中嶋さんと中森さんが会食されたときは、マスク会食は徹底されてるんですか。

(議長) その意識を当然、少人数でかつ、ということで、マスクも喋るときはするとかそういったことは、知事の言われたことを心がけていたつもりでございます。

(質問) 冒頭のご発言含めて状況説明はされましたけども、これについて、本来議長席に座らなきゃいけないものを濃厚接触者という形で、副議長に委託されたとか関係者とかあるいは県政のツートップの一人ですから、そのところに県民への心労をかけたとかいろいろあると思いますが、そこについての謝罪の言葉等は伝えなかったんですけど、それは単に失念されてるという解釈でよろしいですか。

(議長) 先ほど冒頭でも言いましたけどもやっぱり、濃厚接触者の方が特定される可能性がありますので、その辺は控えさせていただきたいと思います。

(質問) そうじゃなくて、関係者とかある程度迷惑かけた部分あるじゃないですか。なりたくてなったわけじゃないにしても、要はそこへ普通ならば、そこは申し訳なかった等の何らかの謝罪の言葉があるはずなんですけど、さっきなかったんで、ただ単に失念されて、忘れられたのですかということですか。

(議長) あらためましてすいません。確かに公務を遂行できませんでした。31日は特に、朝の代表者会議から始まり、本会議もありましたし、それから知事への申し入れもございました。さらには最後、退職辞令等の行事もありましたので、その場において議長がそこにおれなかったことは、どんな理由であってもそういったことになったということにつきましては、本当申し訳なかったなと思っております。

「強じんな美し国ビジョンみえ(仮称)」および「みえ元気プラン(仮称)」

延期申し入れについて

(質問)あとビジョン、プランの延期ですけど、各会派でもまれてその結論が各会派とも受け入れるという方向でいったから、これについてはとにかく議会全体としていえる話ではないんだと思うんですけど、ただ普通ならば、議会とのお約束事なんで、通常知事の定例会見とか聞いてても、知事がその二元代表制という意味合いとか、あるいは県民の代表は法律上議員でしかないという認識は非常に欠けておられるところが時々見受けられる。それで、逆に議会軽視的に、比較的そういうのをずるずる延ばしてしまってるっていう感じはないんですか。

(議長)先ほど言いましたけども、当初は気持ちの中にスピーディーかつ中身の濃いもので4月にまとめられると読んでみえたと思います。ですから、当然その議論を3月、皆さんしてきたわけでありまして、ただその議論する中で、地方議会の議論の中身とかそういったことをすべて経験されて、申し入れも近くなりつつあるときに、これは3月に申し入れしてすぐ4月の議論では深まりが薄いのではないかと、それから広く意見を聞くというところを、まだまだ時間的に足らなくっていうことを気付かれて、軌道修正されたと思っております。ただ、そんなずるずるずるといこうというような感じではなくて、これはもう二度とないでしょうねという思いでお話はしたんですけども、今回はそういったことで、理由は、中身の濃いものをということでお話をしたところでございます。

(質問)歴代、知事になられた方っていうのは、知事になられるときに、例えば当選したら県政をこうしようとか、こういう県政にしようとか、そういうその概念的なものがあって出てこられて、だからコンセプトを後は形に具体的にしていだけなんで比較的、総合計画等も速やかにスピード感を持ってやってきたと思うんですけど、今の一見知事の場合は、その概念的なコンセプトがないからコンセプトづくりから今、始めてるからこうずれてるっていうのが感じがあるというか、取材した限りで、企画の関係者から聞くとそういう形になってるんですね。逆に言ったらその原因っていうのは、共産党さん除く相乗り候補で選んだ知事だから、結局、そのところは目に見ようねっていう議会の甘さっていうのは感じられないですか。

(議長)記者さんの新聞も読ましてもらってるんでお考えよくわかりますんですけども、私自身は、それはそういった外から見たらそうやってみえる場合もあるかわかりませんが、だから何々どうのこうのというんじゃないで、知事ご本人のこの経験する中で地方議会とはとか、そういったことも徐々に理解

を深めてもらいながら、中身の濃いものにすべきビジョンやプランでなければならぬと再認識をされたのではないかなと思ってます。

(質問) 9月成案ということは就任されて1年ですよ、ほぼ。1年、じゃあ時間をかければいいものができるっていうんだったら1年半先でも構わないし、2年先でも構わんという理屈になってくるんで、逆に言ったらそうだからその期限を切ってそこに向けて全精力を傾ける話じゃないですか。それが議会との約束がずれていくっていうのは、本来、さっき議長は議会としてその役割を果たすとおっしゃいましたけれども、少なくともそこについてのその苦言なり何なりっていうのが当然されてしかるべきだし、その辺はある程度されてるんですか。

(議長) 知事が見えたときにも話をしましたし、いろんなところでお会いしますので、その後も立ち話とかするんですけども、やっぱり先ほど少し触れましたけども、延ばした以上は、その延ばしただけの効果がないと何の延ばした理由がないので、成り立たないので、それについては少し触れました、いわゆるパブリックコメントを最終案においてももしっかり取ってほしい。並行して6月に提案されるわけですので、議会での議論がさらにまた深まるわけですし、それから、もうこれはちょっとたまたまになりますけども、7月にいつも成果レポート、7月の予算決算常任委員会があるんですけど、そういったことも踏まえながら、またいいものができるんじゃないかなと、過去のいろんな議論も成果レポートにもあらわれるわけですので、私それもちょうと心で思いながら晴れて9月に完璧なものを提案していただいたらどうかと思っております。

令和4年度の県人事異動について

(質問) あと人事ですけど、今年度の令和4年度の県幹部人事、布陣を見てその職員の配置等、幹部級なんですけど、それは全体を見て何かご感想がありますか。

(議長) 雇用経済部長が国へ帰られるっていうこともあってその関係で部長が配置されたというようなこともあります。1つ感じるんですけど、前の島上部長につきましては、東京に戻られるかと思ったら関西へ行かれて関西万博の関係に深く関わられるって、直接、私は退職の日の31日の僕、家におったんですけど電話だけさせていただいて慰労を申し上げながらこれまでのことを話をしたんですけど、今後こういうことだっていうことで、ぜひとも、三重県で経験されたことを反映してほしいなということをお願いしたんですけども、そのあとに前の副部長であった方や、次長であった方がお戻りになって幹部級で雇用

経済を、非常に今回コロナが侵食する状況の中では、雇用経済的なことまた観光のことが非常に大事になってきますので、そういったことを経験を活かしてされるんだなっていうことは、非常に評価をしているところでございます。あとは新任の方々、女性活躍もされるチャンスの方もできてきましたのでそれも頑張っしてほしいなと思います。あと他にもいろいろありますけど今のところそういう感じですね。特に感じました。

（質問）体制について、個別のその部長さんがどうかこうとかいうよりは、全体体制で昨年度、令和3年度人事というのは、56歳部長、3人誕生させてるんですね。今年はお1人誕生という形で、そこは減ってって、去年3人出したときにある程度の若返りを図るのかなと思ってたら、そういう形にはなってないんですけど、その辺についてはいかがですか。

（議長）それについては特に、昨年度は前知事がされた人事であると思いますけれども、初の人事を一見知事がされた中で、その思いも受けながら整理されたんじゃないかなと思います。特に年齢的なことは、中堅の部長さんですか、若返りは特に目立ちませんでしたけども、それでも思いを込めた人事だったんじゃないかなと思います。

（質問）だいたい今58歳くらいが多いんですけど、部長になられるのが。そうすると定年まで仮に60延長になったって、たぶん部長職は60で退職されると思うんですけど、その方たちがせいぜい部長として働けるのは2年の話じゃないですか。だけど、前、竹内望さんとか戦略企画部長やられた方とかは54くらいで部長になって、当時は54、55歳が多くて、だからポストを定年されるまで3つから4つこなされてきたじゃないですか。それが58部長が多くなってある程度硬直化しているんで、去年刷新して56部長を3人つくったと。その流れが今回お一人つくられているだけでも良いと言えば良いんですけど、若干前へ戻っているような感じがあるんですけど、その辺は議会として見た場合に、部長がもっとポスト、一人の部長がいくつかこなせるほうがいいのか、それともやっぱり今のままでいいのか、どうお考えですか。

（議長）その辺は記者ご経験が長くございますので、いろんな今までの人事を見てこられてのご判断で今ご意見を言っていたと思いますけれども、一見知事が今自分で人事をされてのご判断でございますので、議会の立場からはこれ以上コメントするのはどうかなと思いますので、その結果については今後お一人お一人がご活躍いただいて、県政に貢献いただいて、県民のために働いていただくことを期待したいなと思っております。

(質問) 副議長はいかがですか。若い部長の登用で人事の硬直化をある程度打破するとかいう流れとか、そういうものについて。

(副議長) 若いからとか年だからとかではなくて、当然適材適所でやっていただいているんだろうと思いますので、今、議長言われましたように、一見知事が判断してされていることにあまり我々議会がどうこう言うことというのは、コメントは差し控えたほうがいいのかなというふうには思っています。

(質問) それは、人事は首長の専権事項だからという感じですか。

(副議長) そうですね。

ウクライナへの支援について

(質問) ウクライナの関係なんですけど、意見書を出すということは議決されてきましたが、県議会として義援金的なもの、何かそういう動きはあるんですか。

(議長) 意見書というよりも決議文をさせていただいた。大使館やまた国のほうの機関に送らせていただいたんですけども、他の県議会の動きもあって一応色々調べたり、そのことはずっと調べてはおるんですけど、ただなかなか24日にロシアがウクライナへ軍事侵攻を行ったことに対してすぐにやったわけですけど、3月2日に決議もしたんですけど、ただ、今どういう状況なのかということ、今現状としてはウクライナ多くの民間人の方が犠牲になっていたりとか、非常に心を痛めている議会の中でございますけれども、ただ一応タイミングというのもありますので、どういう形でどこへ送ったらいいのかなということもちょっとご意見も各会派からいただいている、今のところは1日も早く停戦協議が整って、避難民の方々が安心して母国で暮らせるように願うしかないんですけども、ただその中で必要とされる支援がどういう形なのかということも整理しながら、それがどこへ何をしたらいいのかということは引き続き議論していきたいと思っております。まだ代表者会議にけるまでに至っておりません。

(質問) 決議文を出したときに、ほぼ同じ時期に県内で言えば御浜町議会が決議文プラス20万円の義援金を決めたわけですけど、あれ県内の全部の議会の中で唯一だと思んですけど、県内でもそういう動きがあるので、逆に県議会はどうされるのかなとちょっと思って聞いたので、そのところは今後議論し

ていくということですか。

(議長)そうですね。議論が続いているというか、確かにあの時に決議の即座に副議長とも相談し、各会派の代表とも相談をし始めたんです。それは他県での支援がスタートしている。ただ、大規模地震とかそういう関係となかなかイコールではないので、そのあたりがどこへどんな形でというのが、東京へ持っていくのか、それとも県内の関係の団体へ持っていくか、色々それも議論がございまして、今のところはっきりした段階で一番効果的な支援をしていきたいなということで、議論は続いているということでございます。

(質問)他よろしいですか。では、終わります。ありがとうございます。

(議長)どうもありがとうございました。今後ともよろしく願いたします。

(以 上) 11時05分 終了